

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	高齢者グループホーム あねもね あね棟	評価実施年月日	平成20年5月30日
評価実施構成員氏名	・小原 雄二 (施設長)                      ・木村 かおる (管理者兼計画作成担当者)                      ・伊藤 明子 (介護福祉士) ・豊嶋 亜希 (介護福祉士)                      ・大西 昌彦 (介護員)                      ・中村 貴子 (介護員) ・北山 友紀 (介護員)                      ・佐藤 美咲 (介護員)                      ・松田 明久 (介護員) ・道島 康明 (生活相談員)		
記録者氏名	木村 かおる	記録年月日	平成20年6月2日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	ホーム運営方針に基づいたサービス目標を設定しており、その評価を実施している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	週に一度、職員間で確認している。また、会議などを利用し話し合っている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	玄関の見やすい所へ掲示しており、入居時や運営推進会議でも説明している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	立地条件から近隣に住宅がなく日常的に近隣との交流の機会が少ないが、近所の子供がホームに遊びに来ている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町会に加入し地域との連携を図るように努めているが、地域活動が少なく活動に参加することができていないため、当ホームでも地域との交流を目的とした活動実施を検討する。	○ ホームの夏祭りなど地域へ参加を呼びかけ、少しでも地域との交流の機会を設けることができるように具体的に検討するよう努める。
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	近隣の地域住民を対象に介護保険制度についての勉強会を行った。	○ 勉強会をとおして、制度への理解を深めていただく機会を設けるとともに、認知症への理解や介護技術などについても地域住民に知っていただく機会を設けるよう努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	自己評価及び外部評価の結果から改善すべき課題を抽出し取り組んでいる。	○	評価結果を客観的にとらえ多職種の視点から改善点や新たな取り組みを検討し入居者や家族へサービスとして還元できるよう取組みに努める。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	活動状況を書面におこし報告し、その他、日々のケア内容やサービス提供状況については口頭で報告している。出席者の意見や要望などはできる限り取り入れている。	○	出席者からの意見や要望に対する具体的な検討や対応に努める。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	必要に応じ連携をとっている。		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	入居者及び家族の状況をふまえ、必要に応じ生活相談員より制度の説明や活用法などを説明している。		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	虐待防止委員(接遇委員が兼務)を中心に毎月会議で意見交換し、虐待についての認識を持つこと、防止に向けての意識付けを行っている。		
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	入退居にあたり、入居者及び家族の意向を確認のうえ、主治医からの診断や意見をもとに判定会議を行い、その結果を利用者及び家族へ説明し、理解、納得を得ている。	○	契約内容やサービスの内容について要望や不明な点がある際には適時説明や対応方法の検討をし、不安などの解消に努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関ホールにご意見箱を設置しており、入居者及び家族、またはその他関係者からの要望をいただけるよう配慮している。また、生活相談員が苦情相談窓口となっており、要望や相談などを受け付け調査、原因究明、改善策の確立、申し出者への結果報告を行う。	○	ご意見箱、口頭での申し出より入居者の意見や要望を極力汲み取り運営に反映できるように努めている。なかなか申し出しにくいことも考えられるため、入居者と職員とのより良好な関係の構築ができるよう努めてゆく。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月、広報紙を発行し、生活の様子や活動状況を家族へ報告している。お小遣いや日用品の購入などの金銭管理は入居者及び家族からの依頼のもと個人ごとの出納帳にて管理し、領収書を送付している。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関ホールにご意見箱を設置しており、入居者及び家族、またはその他関係者からの要望をいただけるよう配慮している。また、生活相談員が苦情相談窓口となっており、要望や相談などを受け付け調査、原因究明、改善策の確立、申し出者への結果報告を行う。その他アンケート調査を実施している。	○	運営推進会議やご意見箱、口頭での申し出より家族の意見や要望を極力汲み取り運営に反映できるように努めている。なかなか申し出しにくいことも考えられるため、家族と職員とのより良好な関係の構築ができるよう努めてゆく。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月の会議で職員からの提案や意見を聞く機会を設けている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者へのケアや日常業務に支障が出ないように調整し対応できる体制をとっている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	やむを得ない場合を除き、できるだけ行わないようにしている。異動や離職の際には1ヶ月前には入居者及びご家族への説明を行い、次の担当職員へ引継ぎを十分行うようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>職員個々の将来像を見据え、それぞれにあった仕事の割り振りを行っている。また、研修会への参加、指導、助言を行っている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>グループホーム連絡協議会に加入しており、二ヶ月ごとに近隣のグループホーム(十ヶ所)と会議を行い、情報交換や勉強会など取り組んでいる。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>管理職としての研修を行っている。職員とのコミュニケーションの重要性を理解し、不安、悩み、問題点など相談できる体制づくりに努めている。</p>	
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>個々の勤務状況を把握し必要な助言、指導などを行っている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>認知症の状態により意思疎通が困難な場合はご家族からの情報をもとに職員間で検討している。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>管理者、生活相談員、職員が面談を行っている。その際に困っていることや不安に思うことなどを聞く機会を設けている。それ以外でも生活相談員が窓口となりご家族との連絡をとり信頼関係の構築に努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居者及び家族と管理者、生活相談員、担当職員が面談する際に、ホームでの生活で望まれるケア内容や今後の方向性について十分話し合い判断している。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ホームの雰囲気作りや概要など十分に説明し、入居前には極力来所いただき直にホームの雰囲気を感じていただき馴染みやすいようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	日常的な家事や四季の行事など職員と一緒にいていく中で入居者に色々と教わりながら行っているなど相互協力の姿勢で支援にあたっている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	本人の状況や生活の様子などを家族へ適切に伝えるとともに、協同して支援を行う関係を意識しながら、適時家族へも支援協力をお願いしている。	○	家族の面会時には入居者の状況を報告し、意見や情報、要望などを聞いている。面会にあまりこられない家族へは電話や広報紙を通じてコミュニケーションを図っている。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族間での問題、不安等を職員でも把握し対応を検討した上で入居者及び家族とコミュニケーションを図っており、家族関係を良好につなぎとめる支援に努めている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者や家族からの申し出がない限り面会は自由にして頂いている。また、馴染みの店や場所へ行けるよう、家族と協力しながらできるだけ支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	その入居者の気のある方を職員が把握し、座席を工夫したり職員が仲介し交流が図れるように支援している。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退居の際、退居先へ十分な情報提供を行うとともに入居者や家族に対して不安や相談事がある場合、気軽に申し出いただけるように相談受け入れの体制を整えている。また、入院先へのお見舞いも行っている。	○	ホーム利用者に限らず、地域住民も含め相談や問題解決に向け協力できることがあれば随時対応できるよう努めてゆく。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様個々の生活に対する要望を聞き取り、できる限り要望に添えるように努めている。意思疎通困難な場合には入居前の生活状況の聞き取りや本人の言動などに着目し希望する生活の実現に向け職員間で検討している。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴(バックグラウンドアセスメント)を詳細に聞き、入居後のケアサービスに反映させている。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	入居者の言動や体調変化、認知症状などを詳しく記録するとともに連絡ノートを活用し職員間で情報を共有しケア実施に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	担当職員(担当グループ)が課題を抽出し、計画作成担当者が入居者及び家族の意向を踏まえ介護計画を作成している。また、この介護計画に対して当ホーム介護支援専門員が必要な指導、助言を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	入居者の状態により3ヵ月または6ヵ月毎に介護計画の見直しを行っている。また、状態に著しい変化が見られる場合は介護支援専門員と計画作成担当者により、その都度計画の見直しを行っている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	一日の生活状況や介護計画に沿ったケアの状況、状態の変化などを詳細に記録し、評価や介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	要望やその時の状況により、職員間の連携や併施設設などとの連携により柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	入居者や家族の要望に応じ適切な機関との連携をとり支援にあたる事が出来ている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	必要に応じ、併施設設からの協力が得られる体制がある。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要に応じ、連絡をとり連携している。また、運営推進会議には地域包括支援センター職員に出席してもらっている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43 ○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人及び家族の希望を優先し専門科へ受診している。その他、協力医療機関や地域の医療施設との連携をとり適切な受診ができる体制がある。また併設施設へ連絡をとり看護師に相談や協力が得られる体制がある。</p>		
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>当ホーム担当医師である認知症専門医の協力のもと、入居者個々の状態を定期的に報告するとともに、状態に変化があった場合は直ちに受診など対応してもらえる体制をとっている。</p>		
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>協力医療機関や地域の医療施設との連携をとり適切な受診ができる体制がある。また併設施設へ連絡をとり看護師に相談や協力が得られる体制がある。</p>		
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入居者が入院した場合、入院先医療機関に情報提供を詳しく行い、適時職員が面会し病状などの確認をしている。</p>		
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>主治医とともにご家族との話し合いを密にし、その結果を職員全員に周知している。</p>		
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>主治医の指示のもと職員間で支援の方向性について話し合いをしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	管理者と生活相談員、職員間で十分な話し合いを行い情報交換をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	入居者への声かけや関りは、それぞれに合った対応しており、問題が感じられた場合は職員間で話し合ったり、管理者から指導している。個人情報については守秘義務を徹底し誓約書を作成したり記録の持ち出しは厳禁としている。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	言葉かけのほか、ジェスチャー、筆談などで伝えたり、表情や動作、様子などを見て極力自己決定できるように携わり、職員も意思を汲み取るように努めている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居前の生活習慣を尊重し、望む生活が送れるように入居者一人ひとりの言葉に耳を傾けるように努めている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	毎朝、整容の支援をしている。また、理美容については入居者、家族の希望がある場合、家族と協力し合い馴染みの店にいけるように支援している。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	家事仕事を好まれる方と一緒に無理の無いように準備や片付けを行っている。心身状態によりできない方であっても、その場の雰囲気を感じてもらえるように配慮している。また、嗜好品も事前に把握したうえで日々の食事の様子を観察して職員間に周知して提供している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	入居者の好き嫌いを職員間で共有し嗜好について配慮している。また、酒やタバコについては医師からの制限が無い限り職員管理のもと本人の希望に沿うように支援している。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を利用し、入居者個々に合わせた支援を行い、できるだけオムツなどを使用しないように取り組んでいる。また、身体的状況によりオムツ等を使用しているも本人の状態を職員間でこまめに情報交換し、できるだけ早く排泄パターンを把握しオムツの常用をなくすように努め、気持ちよくトイレなどで排泄できるように支援している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	特定の入浴日を定めず、毎日入浴できるように用意をしている。また、入浴を拒否される方にはどのような声かけで快く入浴できるのか職員間で情報交換のうえ検討し、様々な工夫をしている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	入眠困難な場合であってもできるだけ眠剤を極力使用しないようにしており、自然に眠れるよう工夫している。その他、休める場所を色々な所に用意し、安心して休憩できるように配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活歴(バックグラウンドアセスメント)の活用や本人の好まれる活動を余暇活動や家事などから見出しホームでの生活を楽しめるように支援している。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	可能な限りお小遣い程度の金額を自己管理していただき買い物の際には自分で支払いなどができるように支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	定期的に外食やおやつ外食を実施し外に出て楽しむ時間が持てるようにしている。また、外出を希望されない方(好まない方)であっても本人の様子から職員が動機付けし、計画のうえ外出の機会を設けている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	日常の会話の中や情報誌を一緒に見みるなど、入居者の興味や行ってみたい所を聞き出し、出来る限り機会を設けている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	いつでも電話がかけられるようにしている。介助が必要な方には職員がつき対応することで電話を使用する機会を設けている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間は原則決まっているが、事前に連絡いただければ時間外でも職員が対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会(接遇委員兼務)が中心となり、毎月の合同会議時に職員間で身体拘束への正しい理解や身体拘束を行わない方策などを話し合っている。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関の施錠はしないが、事故防止のためドアの構造に(ボタンを5秒以上押す)工夫をしている。また、玄関の出入り時にブザーが鳴り、職員がすぐに対応できるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員がさりげなく各入居者の様子を見守りし、あわせて所在確認もしている。夜間は適時巡回を行ない、状況をこまめに記録している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	自傷他害行為や物損行為が無いことを確認の上、自己管理が可能かどうか職員間で話し合いをし、適切に管理ができると判断できる場合には自己管理していただいている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止、防災について勉強会を行っている。また、事故対策委員会において、事故やヒヤリハットの分析・対策等を発生直後職員全体に周知し、合同会議などで防止策を検討・再確認している。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防署員による救命救急講習の受講、また、職員全体での勉強会を実施している。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回の避難訓練の実施、及び、防災教育を実施している。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	介護計画の作成時にリスクについて説明を行っている。また、状態の変化にともなうリスクについてその都度家族へ説明を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	些細な異変でも申し送りや連絡ノートに記録し残すことで、職員間で情報を共有し、早めの対応に努めている。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	全職員が入居者個々の服薬状況を把握している。また、薬の変更時には状態を注意深く観察し主治医へ報告している。服薬時は飲み込むまで確認している。	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	乳製品や繊維質の食材を取り入れたり運動する機会を設けることで自然排便ができるように工夫している。	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	介助が必要な方には毎食後口腔ケアを行っている。口がすすげない方にはトウモロコシスエッテと液体歯磨きなどを使い口腔内清潔保持に向け支援している。	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分をあまり摂らない方にはチェック表を活用し、必要量の水分摂取を確保している。食事摂取量にばらつきある方は記録に残し、必要時には補食している。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染対策委員会においてマニュアルを整備し活用するとともに、毎月合同会議で話し合いを行い防止策や対策を検討している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	台所内の清掃、整理整頓は分担制にし、清潔保持に努めている。調理後はまな板や布巾など必ず消毒している。また、調理前は必ず食材の賞味期限をチェックしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関の整理整頓により事故防止に努めている。また、入居者や来訪者の目を喜ばせることができるようにホームの前には植木や花を植えている。その他、玄関内外の清掃の徹底、玄関に季節を感じるができるよう飾り物をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	その時にあわせたカーテンや照明で明るさを調節している。また、共用スペースには季節や年間行事にあわせた飾り付けをしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングソファアのほか、畳敷きの小上がりもあり、各入居者本人が居心地のよい場所で過ごしていただいている。また、廊下に椅子を置いたり、気の合う入居者同士の席に配慮している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の際はできるだけ、これ使っていた家具や使い慣れた物を持参していただくようお願いしている。居室内の家具の配置は入居者、家族、職員間で話しあい決めている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	臭いや空気の入替えのため、こまめに換気を行なっている。各室には温度計を設置し冷房や床暖房を天候などに合わせ使用し、適温になるように調節している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>建物内はバリアフリーになっている。建物内は歩行器や車椅子が使用できるスペースを確保しており、安全かつ自由に移動できるようになっている。また、手すりも様々な所に設置しており安全確保に努めている。</p>	
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>入居者のわかること、わからないことを日々把握するように努め、職員間で情報交換を支援にあたっている。また、目線に合わせた居室前に名前を掲示したり、座席や居室、トイレなどにネームやサインボードを掲示している。</p>	
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>中庭には花壇やベンチがあり、いつでも外に出られるようにしている。花壇や畑は入居者と一緒に植え付けを考えたり、手入れをしている。</p>	



V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらい <input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらい <input type="checkbox"/> ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="checkbox"/> ①毎日ある <input type="checkbox"/> ②数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> ③たまにある <input type="checkbox"/> ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらい <input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらい <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらい <input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらい <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらい <input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらい <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらい <input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらい <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらい <input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらい <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての家族 <input type="checkbox"/> ②家族の2/3くらい <input type="checkbox"/> ③家族の1/3くらい <input type="checkbox"/> ④ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働けている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

緑に囲まれた環境のもと、職員と一緒に地域や自然とふれあいながら、その方の残されている力、潜在している力を大切にゆつくりと楽しく、個々の生活リズムにあった生活を送っていただけるよう支援いたします。

また、その方にとって「我が家」であるために、ご家族や地域との結びつき、職員との馴染みの関係作り、心の安らく空間など家庭的な環境を大切にしております。